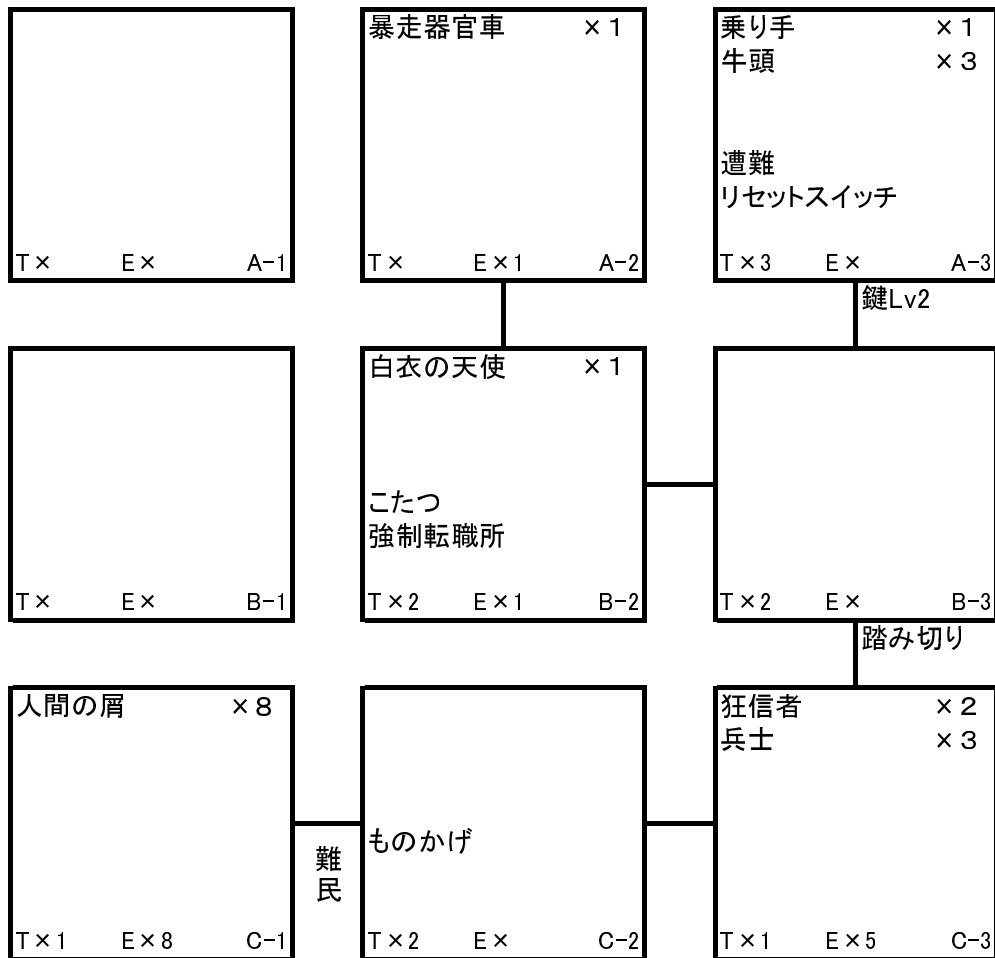


# 14番目の花嫁



## C-1(入口):

人間の屑が「腹減った」と言っている、中立だが、お弁当を渡すと心を入れ替え、モンスターでない《民》となる。戦っても良い。

## C-2:

朽ちた神殿がある、おばけシーツ達(10匹)が舞っているが、触らなければ害はない。(探索不要の【ものかけ】相当)  
A-3で【リセットスイッチ】を使うと、【ものかけ】の中身が変わっており、脳漿喰らい×1、極悪中隊×2、傭兵×2になる。  
脳漿喰らいは、宮廷の仇、天敵がいればそれに置き換えても良い。神殿も使命にあわせた施設に合わせても良い。  
彼らこそ、今回の事件の首謀者で、昇降機解放機構もそそのかし、国中の心を奪おうとしている。

## C-3:

人だかりが出来ている、昇降機解放機構(狂信者)がアオヒゲ公の悪事を訴えている。  
言っていることはその通りだが、良く聞いているとこの器官車の暴走を招いたのもまるで彼らのようだ。  
狂信者は狂信者でランドメイカーを目の仇にしており、戦闘になる。【説教】で減った《配下》は戦闘に勝てば戻ってくるとする。  
倒されると「暴走器官車には敵うまい、どちらにしろこの城はもう終わりだ。」と言って死亡する。兵士はキャンプで説得可。

## B-3:

特に何も無い部屋、A-3への道には“牢獄”と書いてあり、鍵がかかっている。通常の解除判定で鍵は開く。

## B-2:

たき火の前でワードラゴン汗が傷つき倒れて白衣の天使が介抱している、どうも暴走器官車に跳ね飛ばされたようだ。  
「お前たちでは敵わん、やめておけ、他に手があるはずだ。」とだけ言うので寝込んでしまう。  
白衣の天使は中立、反応表に従って敵対的だとそのまま去ってしまう。  
友好的の場合、治療していた2d6人を預ける、彼らは《配下》に加わると同時に、牢獄に伝説の軍師が囚われている事を教えてくれる。  
A-2の部屋からは器官車の呼吸音が聞こえてくる、とにかく荒れ狂っているようだ。  
部屋のたき火はこたつ相当で、見入って休憩してしまうと炎の中に新しい道を見出し、強制転職所も発動する。

## A-3:

牢獄の中で牛頭が最後の頭蓋骨をどっちが食べるかで喧嘩しており、それを乗り手が煽っている。  
宮廷が入ってくると、その問題が全て解決して襲い掛かってくる、戦闘になる。  
倒された後、乗り手は停止するが原形をとどめたまま転がる。探索すると【リセットスイッチ】であることがわかる。  
部屋の探索に成功すると別の牢の干からびた死体が復活薬を持っており「見つけたものよ、私にこれをかけてくれ。」と書いてある。  
復活薬を死体に使用すると、生き返り“万に一つの”シュソウと名乗り、国に脳漿喰らいが入り込んできた経緯を教えてくれる。

## A-2:

暴走器官車が息巻いている、倒せばシナリオクリアとしても良い。

# 14番目の花嫁

